



九州の世界遺産①

屋久島(鹿児島県)

- ◆ 1993年に世界自然遺産に登録された鹿児島県の「屋久島」は、九州の最南端、佐多岬から南南西約60kmの海上にあります。日本百名山でもある九州最高峰の宮之浦岳をはじめ、1,000m以上の山々が多数連なり、「洋上のアルプス」の島とも言われています。
- ◆ 樹齢1000年以上の屋久杉をはじめ、多くの固有植物や南限・北限植物が自生するなど多様な植物分布に恵まれた極めて特異な生態系と優れた自然美が見られるところです。



「永田岳」



「屋久杉」

九州の世界遺産②

「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」①

- ◆ 「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」は、23の構成資産全体で顕著な普遍的価値を有しています。
- ◆ 開国と明治維新に伴う大きな変化の痛みを乗り越え、半世紀で人を育て、産業革命を受容する社会システムを築くという、我が国の重工業に起こった大きな変化、国家の質を変えた半世紀の産業化を物語っています。

旧修成館(鹿児島県)



集成館の反射炉跡。薩摩藩は、海防の危機感より、鉄製大砲を鑄造しようと、オランダの技術本を片手に、外国人技術者の指導なしに自力で反射炉を建造しました。1850年代、日本に大砲鑄造のために建設された反射炉11基の内、現存する3基の1つです。集成館事業における薩摩の西洋科学への挑戦と試行錯誤の実験を物語っています。



三重津海軍所跡(佐賀県)



三重津海軍所は1861年に建設され、現存する日本で最も古いドックです。2009-2012年、発掘調査されました。正面部の木組は側面の柱に固定され、また全体の構造も内壁にしっかりと支えられて、完全な状態で残っていました。



九州の世界遺産③

「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」②

- ◆ 日本は非西洋諸国で初めて意志を以て産業化を成し遂げ、世界の舞台で近代国家として認知をされた国です。産業化を通して、国の社会的、経済的展望を大きく変え、地政学上における日本の地位を世界の舞台において確保しました。
- ◆ その成功は、特に製鉄・製鋼、造船、石炭などの重工業における、西洋からの積極的な産業技術の導入プロセスに特徴づけられています。

端島炭鉱(長崎県)



端島炭坑は、高島より南西3kmに位置し、高島炭坑と同じ、西彼杵海底炭田を鉱床とします。岩塊の小島を取り巻く新たな土地は、高波から島を守るため、要塞のような護岸に囲まれました。最盛期、端島は世界で最も人口過密な炭鉱コミュニティでした。



三池炭鉱万田鉱(熊本県)



万田坑は明治後期から昭和中期にかけて三池炭鉱の主力坑口でした。

現在は第二堅坑跡や鋼鉄製の櫓など人馬昇降及び坑内排気機能を担った明治後期の建造物群が現存する他、堅坑櫓、巻揚機室の基礎、デビーポンプ室の一部が遺構として現存します。

